



奈良教育大学後援会

会 報

《第24号》

発行：奈良教育大学後援会事務局 奈良市高畠町奈良教育大学内 電話 0742-27-9276 FAX 0742-27-9146

2022. 12. 1 発行

新たなスタート



奈良教育大学後援会

会長 村上 守

後援会の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動にご理解、ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

2020年3月から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大により、学生にとって、憧れの大学生活が少し違ったかたちになってしまったのは否めないでしょう。保護者の方でも、後援会会員どうしが顔を合わせる機会が極端に制限され、後援会として、活動の“見える化”が難しい中、会員の皆様に充分な情報が提供しにくい状況にならざるを得ませんでした。

また、今年はロシアのウクライナ侵攻、それに伴う世界の国々の分断という、今まででは“当たり前”と思っていたことが、“実はそうではない”と認識させられるようなことが起こりました。世界全体が混乱していると言っても過言ではないでしょう。学生も私たちも、“変わっていくもの”が多い状況の中で、“変わってはいけないもの”を自分の中で大切にすることが重要になっていると思います。

暗い話題が多い昨今ですが、令和4年4月、奈良教育大学と奈良女子大学は法人統合し国立大学法人奈良国立大学機構が設立されました。学生や後援会の皆様にとって、明るい話題でしょう。2つの大学が1つになるのではなく、奈良教育大学も奈良女子大学も存続し、それぞれ異なる強みを相互に提供しあい、これまでにない新しい国立高等教育機関として、教育・研究面の機能強化を図ることが掲げられています。歴史のある両大学がタッグを組み、新しいスタートをきることになります。大きな期待もありますが、学生にとっては少し戸惑いもあるのではないかと思う。両大学がお互い“win-win”な関係になることが期待されますし、その一助として後援会としてもできることがないか今後さらに考えていくことになるでしょう。

ようやく秋になり、過度な制限を強いることがない新しい“With Corona”的社会が始まる気配がでてきました。後援会では大学と連携し、クラブ活動の充実、就職支援、学習奨励費の給付など、様々な支援を継続して行っています。会員の皆様には、どうぞ今後とも、ご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

長いトンネルを抜けて



国立大学法人奈良国立大学機構
奈良教育大学

学長 宮下俊也

奈良教育大学後援会の皆様には、日頃より本学の教育・研究にご理解いただき、学生の学びを様々な面からご支援いただいておりますことに、深く御礼申し上げます。

ようやく、コロナ禍という長いトンネルの出口が見えてきました。もちろん、感染症が「終息」したわけではありませんが、キャンパスを見ていると、このパンデミックを経験し培った「新しい日常」の中に、コロナ以前の日常も少しずつ戻ってきている、そんな感覚を覚えます。私たちは、この間に失ったことは取り戻し、しかし過去に戻るのではなく、新たな未来を築くために力強く歩んでいかなければなりません。

「この間に失ったこと」で、最も深刻なのは「人と会（逢）って話をすること」の喪失ではないか、と私は思っています。オンラインでもなく、電話でもなく、SNSによる文字のやりとりでも、マスクで顔を覆っての会話でもない、互いに目や表情を見て、声のトーンや抑揚をよく聴いて、機微を感じ取り、気持ちよく、建設的に対応していくコミュニケーションが乏しくなっていることです。

学生時代は、様々な人や社会とのネットワークが格段に拡がっていく貴重な時です。社会人になる直前のこの時期に、大人としてのコミュニケーション能力を身に付ける機会が減じてしまったとしたら、特に、教員を目指す学生にとっては深刻なことだと思うのです。

本学では、そうしたことを取り戻すべく、様々なイベントを打ち出しています。奈良女子大学の学生や、奈良先端科学技術大学院大学、奈良国立博物館、奈良文化財研究所等の研究者との出会い、教育以外の学問分野との出会いなどです。近いところでは、本学と奈良女子大学の学生のためだけに行われた「高松塚・キトラ特別観覧会」や、世界的なピアニスト反田恭平さんとともに人生の「夢」を語り合うイベントもありました。

学生には、こうしたチャンスを逃さないようにしていただきたいと思います。経験すればきっと何かが得られる、たとえ得られるものがなかったとしても失うものは決してない。学生時代とはそんなものだと思います。ぜひ、保護者の皆様からもお伝えいただければと思います。

最後になりますが、一つお願いがございます。ご存知のように、本年度は予期せぬ光熱費や物価の急騰により、国立大学の財政が非常に厳しくなっております。奈良教育大学では、学生の学修や研究活動だけには何としても支障を及ぼさないよう努力しておりますが、後援会の皆様からのご支援を、是非、「奈良教育大学『未来を育む基金』」にお寄せいただければ、本当に嬉しく存じます。どうかよろしくお願い申し上げます。



奈良教育大学「未来を育む基金」について
(パンフレットも同封しています)



☆☆☆ キャリアサロン情報 ☆☆☆

○ コロナ禍で教員等を目指した学生たち

キャリアアドバイザー

奥 村 浩 一

キャリアアドバイザーとは、本大学の学生支援課が運営するキャリアサロン（就職支援室）の支援員のことです。大学の特性上教員を目指す学生が多いので、キャリアアドバイザーには小中高等学校それぞれの校種の校長経験者が一人ずつ、計3名が支援に当たっています。就職支援に当たる中で、2019年からの新型コロナウイルス感染拡大は、大学の学びの形をはじめ小中高の学校現場に大きな変化をもたらしました。

それまでも学校現場ではICT機器を活用した教材の工夫は進められていきましたが、まだまだ黒板とチョークでわかりやすい一斉授業ができる力量が求められていたのです。

ところがコロナ禍により学校の活動が制限され、人が集まらなくてもできる学習や行事を工夫することが求められました。オンライン授業やタブレットの活用が学校現場で一気に進むことになり、個別最適な学びの視点でICTの活用も含め児童生徒が主体的に学習を進められるような学習方法を模索することが求められました。

本大学の学生たちも講義室での講義がすべてオンライン講義に代わり、パソコンやスマホを使った授業や課題提出が日常化する中で、ICT機器活用のメリットとデメリットを体感してICT機器活用の基礎を身につけていると考えられます。

ただ、人との関係力は人と接することでしか成長しないため、学校現場では互いの個性を尊重して協働的な学習ができる機会を今まで以上に重要視されるようになってきています。人との関係力を育てるためにも、教員を目指す学生たち自身が人との関係力を育まなければなりません。しかし、コロナ禍の中で多くのイベントが中止縮小されて、人と出会い協働する機会が奪われてきました。それでも学生たちは新たな目標づくりや次世代への継承のために今できることを探し求めて話し合いを重ね、その活動の中で人間関係力を養ってきたと感じています。一時は人間よりも鹿のほうが多く学内を歩く風景の下でも、学校でしか学べない人との関係力を育てる力のある学生たちがたくましく育ってきています。

まもなく「ウイズコロナ」と呼ばれる時代が来たときに、この学生たちが社会に出て本大学での学びを通して身につけた力を発揮できるよう、就職という社会への出口の部分で私たちキャリアアドバイザーは支援をしていきます。後援会組織の皆様方には、これからも学生たちの様々な活動に支援いただき、活発なキャンパスライフを支えていただきますようお願ひいたします。



○ 就職及び支援状況について

就職支援室

植木 久晴

1. 教員の採用状況等について

公立学校の教員採用試験の採用者数（募集人員）は、近畿地区では昨年度より若干減少傾向にありますが、増加した地域もあります。（資料1）

令和4年度実施の教員採用試験の本学学生の合格状況については、10月時点の集計で、次のとおりとなっています。（資料2）

（資料1）

	小学校	中学校	高等学校	特別支援	養護教諭
奈良県	130 (110)	90 (100)	68 (58)	35 (25)	12 (10)
大阪府	460 (500)	400 (410)	200 (330)	200 (240)	25 (25)
大阪市	420 (450)	240 (210)	—	—	15 (15)
堺市	75 (63)	75 (50)	—	—	6 (7)
豊能地区	100 (90)	50 (40)	—	—	若干名
兵庫県	350 (410)	290 (290)	240 (220)	60 (60)	35 (40)
神戸市	120 (120)	100 (100)		30 (30)	5 (5)
京都府	120 (120)	80 (75)	110 (150)	50 (65)	10 (10)
京都市	100 (150)	60 (90)	15 (15)	50 (60)	10 (10)
和歌山県	190 (180)	64 (96)	36 (40)	40 (43)	10 (27)
滋賀県	250 (230)	135 (130)	80 (75)	65 (55)	10 (25)

*募集者数は、府県により「～名程度」、「約～名」で記載されている。

*（ ）内は昨年度を示す。

（資料2）

奈良県 27	大阪府 17	大阪市 6	堺市 4	豊能地区 3	兵庫県 3
京都市 3	長野県 3	鳥取県 3	京都府 2	和歌山県 2	その他府県 24

*合格者には保育士及び私立学校合格者を含む。

本学では教員採用試験対策の支援として、模擬試験、各教科の対策セミナー、模擬面接、模擬授業、キャリアアドバイザーの個別相談、各種実技対策（水泳、球技、マット・器械運動、ピアノ等）などを行っています。

2. 企業の就職状況について

本学では、毎年40名前後の学生が企業就職しています。企業の内定を出す時期が年々、早くなっています。3回生の3月頃に内定を出す企業も増えているため、早めの活動が必要になっています。企業就職希望者を対象に、オンラインの個別相談を適宜実施するとともに、3回生の春にインターンシップ対策講座を、10月から12月にかけて、自己分析、企業研究、面接対策などの講座を実施し、企業就職を目指す学生の支援を行っています。

(就職支援室からのお願い)

就職支援室では、学生が充実した学生生活を送り、希望する進路に進めるように、様々な支援を行ってまいります。保護者の方々におかれましては、本学で実施する就職支援についてご理解を賜りますとともに、各種支援の積極的な活用をお勧めいただきますようお願い申し上げます。

☆☆☆ 課外活動の日々 ☆☆☆

○ 第73回奈良教育大学大学祭『輝薈祭』の活動

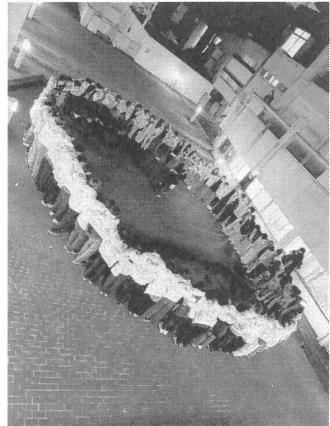
第73代大学祭実行委員会委員長
学校教育教員養成課程
3回生 木 村 健

第73回輝薈祭が11月19日(土)と11月20日(日)に開催されました。昨年はコロナウイルスの状況に対応して、学内関係者のみと入場規制を設けていましたが、今回はより多くの方々に楽しんでいただけるよう、模擬店を復活させた上で、飲食スペースの設置や見回りの強化など内部の感染症対策に力を入れました。その結果、約1700人の来場者に足を運んでいただきました。



今年度のテーマは「魔法」でした。構内装飾はテーマに沿って統一され、例年企画の国際三輪車レースやお化け屋敷では長蛇の列ができ、子どもフェスティバルでは、スタッフだけでなく、子どもたちも魔法使いに変身

し独自の世界観で楽しんでいただけました。さらに今年は新たな試みとして、のど自慢大会を講堂で行いました。私は審査員に入っていたのですが、全体としてレベルが高く、感動的な歌声に涙してしまいました。学生が楽しめなかった昨年の反省を活かし、模擬店・ステージ発表・展示研究発表・教職員作品展で盛り上げました。出演者の普段とは違った一面に学生達は大変盛り上がったと思います。ちょうどコロナウイルスが現れてから3年の月日ですが、未だに猛威を振るう現状で様々な反感もありましたが、何もしなければ4年しかない私たちの学生生活は何の色もなく過ぎ去っていた事でしょう。そんな私と共に歩んできてくれたかけがえのない仲間と返しきれないほどのご協力・ご支援をいただいた皆様に深く御礼申し上げます。委員一同、今年度の反省を活かしこれから輝薈祭をさらに実りあるものにして参ります。



○ 書道教育専修2回生展について

書道教育専修2回生一同

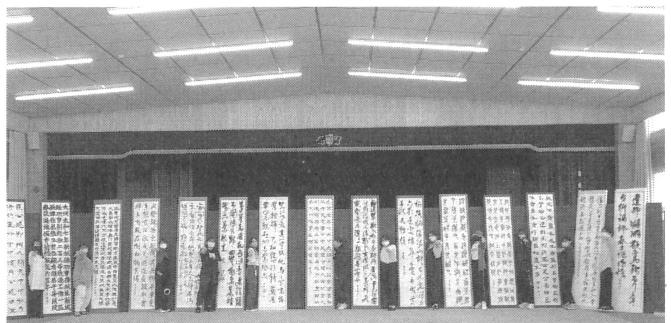
9月22日(木)～9月29日(木)の期間、書道教育専修2回生展を開催しました。

新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、昨年度はできなかった、学外の方も来場可能という形での開催となりました。夏季休業期間中でしたが、学内外から多くの方が来場してくださいました。

身長よりも大きな漢字の作品、繊細な仮名文字の作品、自由に自分の作りたいものを作る創作作品、共同制作としてうちわを、1人4種類の作品を仕上げました。準備は6月頃から始め、先生方に批評していただきながら納得のいく作品になるよう、15人が各々取り組みました。

今回のような作品制作は授業外の課題となります。授業の課題や他の展覧会の作品制作も同時に進んでいる中で、自分たちだけで準備から開催まで行うのはとても大変です。時間がない中、どれだけこの展覧会に時間を割けるかは人によってバラバラですが、こうして展覧会を無事に終えられてとても達成感を味わえました。それぞれ課題はまだまだありますが、現時点での精一杯の作品ができたのではないかと思います。

卒業前にある最後の展覧会まで、回生展はあと1回です。他の展覧会への作品制作も含め、自分で納得のできる作品にできるよう、15人全員でこれからも頑張りたいと思います。



(お知らせ)

○ 第57回奈良教育大学書道展を開催について

学校教育教員養成課程
3回生 兵 庫 舞

1月20日(金)から22日(日)の3日間、奈良県文化会館にて第57回奈良教育大学書道展を開催いたします。

奈良教育大学書道展は奈良教育大学書道科の学部生・大学院生の各作品と、卒業生、先生方の作品を多数出品する、本学科における一番大きな展覧会になります。

私たち学部生は夏休み前から作品制作に取り組み、よりよい作品を作ろうと練習を重ねてきました。

学部生全員が一丸となり、準備に取り組んでまいりました第57回奈良教育大学書道展は私たちの1年間の集大成です。

ぜひ御高覧の上、御批評賜りますようよろしくお願い申し上げます。

☆☆☆ 部 活 紹 介 ☆☆☆

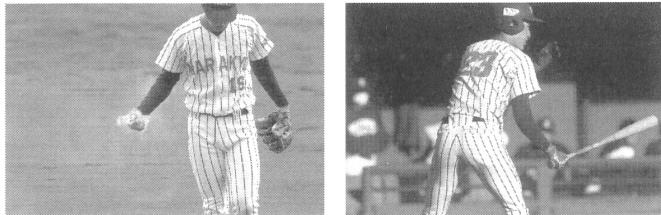
○硬式野球部

マネージャー 学校教育教員養成課程
2回生 出 口 夏 帆

私たち硬式野球部は選手 23 名、マネージャー 4 名の計 27 名で月・水・木・土の週 4 回奈良教育大学内のグラウンドで日々練習をしています。土曜日、長期休暇中にはオープン戦も行っています。春季、秋季にはリーグ戦があり、現在はⅢ部優勝、Ⅱ部昇格を目指して練習に励んでいます。

そんな私たちの野球部には指導者がいないため、練習メニューを自分たちで組み、工夫をしながら真剣に練習をし、仲間と励まし合いながら時には楽しい雰囲気で練習しています。試合の時にはより真剣でかっこいい選手のプレーを見ることが出来ます。

現在はオフシーズンですが、技術練習とともにトレーニングも頑張っています。来季のリーグで必ずⅢ部優勝し、Ⅱ部に昇格できるよう部員一同頑張って活動しますので応援よろしくお願ひします。



☆☆☆ 「学習奨励費をいただいだ」 ☆☆☆

学校教育教員養成課程
4回生 岡 本 真 実

私は現在、教員採用試験を終えて日々卒業論文に取り組んでいます。卒業論文では、平安時代の儀式の変化をもとに当時の政治体制や文化の変容を探るため、先行研究となる文献を読み漁っております。

私自身、学習奨励費は 2 回生から頂いており、面白い社会科の授業ができる先生を目指すための資金として活用していました。例えば、母校での教育実習での準備資金として使い、中学校とは違った高等学校の特徴や今の教育現場の様子を肌で感じることができました。また、実習だけでなく授業を作る上で必要になる専門的知識を得るために、本や資料を買うことにも使わせていただきました。この奨励費があったことで、自分の人生の糧となる知識や経験を得たことでより、教員としての自覚を持つことができたと思います。

加えて、ESD や農業の援助に関するボランティアやスクールサポートに参加しており、その交通費を賄うためにも活用させてもらいました。これらのボランティアに参加したことで、地域の方々との繋がりの大さだけでなく、農業の現場や地域の様子など実際にやってみなければわからないことを知り、その実体験を子ども達に授業などで伝えていきたいと感じました。また、学習指導の在り方や特別支援についてもスクールサポートに参加したことでの自分の教育観や指導の軸を作ることにつながりました。

このように、学習奨励費をいただいたからこそ普段できない体験を大学生活でできたと感じており、この経験こそが自分の人生の素晴らしい財産になっていると思います。4 月からは教壇に立ってこれらの経験を生かしながら、社会科の先生として面白い授業を展開できるよう日々努力していきます。

☆☆☆ 大 学 情 報 ☆☆☆

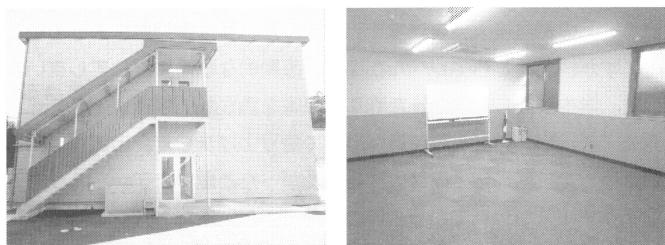
○国立大学法人奈良国立大学機構設立記念式典を開催

令和 4 年 9 月 24 日（土）、ホテル日航奈良で、国立大学法人奈良国立大学機構設立記念式典を開催しました。式典には、奈良教育大学、奈良女子大学の関係者、荒井正吾奈良県知事、高市早苗経済安全保障大臣などの来賓、約 100 人の出席がありました。榎理事長の挨拶では、伝統ある奈良教育大学、奈良女子大学がそれぞれの強みを提供し、相互に学びあい、支えあい、高めあいながら、また、地域とも連携を深めながら、学生・教職員がともに学びや研究を深めたいとの抱負が語られました。



○クラブハウスが竣工されました

令和 4 年 6 月 1 日（水）に、クラブハウスの竣工式が行われました。クラブハウスは 2 階建てとなっており、1 階部分には音楽活動が可能な防音室 1 室、さらに同窓会からの寄附により多目的ルーム 2 室が整備され、学生の課外活動で使用されることになっており、同室内で使用される什器等の機器については本後援会の寄付金によって整備される予定です。



☆☆☆ 後援会からのお知らせ ☆☆☆

○ 令和 5 年度の学習奨励費の募集予定について

1. 書類配布 令和 5 年 2 月 6 日（月）から
2. 提出期限 令和 5 年 4 月 21 日（金）
(後援会の HP に掲出予定)

○ 会報の発行

会報の発行 奈良教育大学後援会事務局
住所 奈良市高畠町奈良教育大学内
電話 0742-27-9276
kouenkai9276@yahoo.co.jp
<https://www.narakyokouenkai.com/>